

令和3(2021)年度第2回公の施設指定管理者選定委員会概要報告

柏崎市財務部財政管理課

- 1 開催日時 令和3(2021)年10月28日(木) 午後1時30分から午後3時45分まで
- 2 場 所 柏崎海洋センター(シーユース雷音)
- 3 出席者 ○選定委員(五十音順)
高橋委員(委員長)、阿部委員、金子委員、齋藤委員、中村委員、本多委員
○施設所管課(商業観光課)
田辺係長、中村主査
○事務局(財政管理課)
山岸財務部長、本間課長、伊比課長代理、田邊主査

4 概要

今年度指定管理者の更新手続を公募で行う1施設について、現地見学を行った後、指定管理者候補者を選定した。決定事項及び選定審議の流れについては(1)及び(2)のとおり。

また、令和2(2020)年度実績に係るモニタリング結果及び非公募施設の事業計画書についての報告を行った。

(1) 決定事項

柏崎海洋センター(以下、「シーユース雷音」という。)**【更新】**

指定管理者候補者：公益財団法人かしわざき振興財団

(2) 選定審議の流れ

申請事業者1者がプレゼンテーションを行い、質疑応答及び委員間での全体審議を経て、各委員が審査シートを記入した。審査シートは事務局が集計し、その結果を委員長から発表し、委員全員の了承を得て、(1)のとおり、指定管理者候補者を選定した。

5 委員会の要旨

(1) 開会

(2) 財務部長挨拶

(3) 現地見学

(4) 議事

ア 定足数の確認について

委員全員が出席していることから、定足数を満たしていることを確認した。

イ 指定管理者の選定対象となる団体と委員との特別な関係の有無の確認について

特別な関係がないことを確認した。

ウ 会議の公開の適否について

会議は非公開とする。

エ 公募施設の指定管理者候補者選定方法の説明

<事務局から説明>

オ シーユース雷音の選定審議

応募事業者：公益財団法人かしわざき振興財団（以下、「申請事業者」という。）

<プレゼンテーション>

パワーポイントにより説明（説明者3名）

<質疑>

委員： 収支状況について、平成30年度が黒字、それ以降は赤字との説明だったが、モニタリングシートでは平成30年度も赤字である。何か理由があるのか。

申請事業者： 収支状況はモニタリングシートのとおりであり、プレゼン内容に誤りがあった。

委員： 収支状況を見ると、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により赤字なのは致し方ないが、それ以前も平成29年度から赤字が続いている。どのような分析をされて、どのように黒字化の事業計画に反映されているのか。

申請事業者： 決算上はマイナスであるが、シーユース雷音の直接経費のみを見た収支は通年プラスであった。しかし、総務等の間接業務は財団本体が担っているため、共通経費を各事業所が支出し年度末に計上しなければならない（以下、「共通費用配賦」）ためマイナスとなっている。

委員： 財団への共通費用配賦を計上しているから赤字になっているということか。

申請事業者： そのとおりである。

委員： 共通費用配賦はシーユース雷音事業とは別ではないか。実際の収支実態が不明確であり、共通費用配賦をシーユース雷音事業に計上することは疑問がある。

申請事業者： 確かにシーユース雷音事業とは別であるが、財団の中の一つの事業所と捉えているため、事業規模や従事割合に応じて計上している。

委員： シーユース雷音に限らず、財団が運営している施設すべてが計上しているのか。

申請事業者： そうである。間接業務を行うための人件費や諸経費等を捻出するために必要である。

委員： そうなると、シーユース雷音自体の事業実態が見えないということだ。共通費用配賦が無ければ、シーユース雷音は黒字ということか。

申請事業者： そのとおりである。組織の最終的な決算の方法として、どこかから共通費用配賦を計上する必要がある。

委員： 共通費用配賦が必要経費であるなら、結果的には赤字である。今回の事業計画でも、共通費用配賦も含めてどのように分析し反映しているのか。

申請事業者： 2年間に限っては、事業規模などを考慮して共通費用配賦を非常に低額に設定している。

委員： 収支計画で辛うじて黒字と見込んでいるが、確たる根拠はあるのか。

申請事業者： コロナ禍であり、見通しが付いていない部分はある。しかし、利用者数を40～60%と見込み、それに向かって努力していく。

- 委員： 外部の管理区域はどのようになっているか。
- 申請事業者： 建物と前面駐車場等を除いて、セントラルビーチ及びみなとまち海浜公園等周囲の管理は柏崎市が行っている。
- 委員： 申請書類には緊急時の対応マニュアルが添付されているが、実際に外でトラブルがあっても管理区域外であるという認識であるか。
- 申請事業者： 敷地としては管理区域外であるが、事故やトラブル、軽度の清掃等の対応は日常的に行っている。
- 委員： 管理責任を問いたい。外部で第三者災害が起きた場合の管理責任は、シーユース雷音ではなく、市の責任となるのか。立地上様々な事故やトラブルが想定される。財団として、心がけていくべきだと思う。
- 委員： 5年に一度指定管理の更新を行っているが、取引業者の選定方法や考え方について伺いたい。
- 申請事業者： 取引業者との馴れ合い防止やコスト削減の観点から、基本的には見積合わせを定期的に行い、厳しい目で行っている。また、県内市内を中心に見積合わせを行い、一社に固定するわけではなく、幅広く業者を探している。
- 委員： 見積合わせの内容を、私が閲覧することはできるか。
- 申請事業者： 契約を行っているものなど保存してある書類についてはお見せできる。
- 委員： 以前から利用させていただいているが、休館しているのは非常にもったいなく、市民として寂しく感じる。
次期計画でもイベントを計画しているようだが、宿泊と入浴だけでなく、それに付随するものがあると他施設との差別化ができるのではないか。料理も美味しいため、手作りの持ち帰りや日帰り企画も含めて検討してみてもどうか。
また、12月から再開とのことだが、11月に臨時的にでも開館することはできないか。現在、新型コロナウイルスが下火になり県民割など様々な企画がされ、待っていた人々が動き出している。なぜ12月まで待つのか教えていただきたい。
- 申請事業者： 開館については、担当課と協議を行って決定した。休館中は指定管理料が収入としてあり、新型コロナウイルスの収束も不透明であるため、開館について慎重に判断した。12月から精一杯頑張らせていただきたい。
- 委員： 12月以降に新型コロナウイルスが厳しくなった場合は、休館も視野に入れているのか。
- 申請事業者： 国の政策によると思われる。事業者としては開館したいが、収支バランスを考えると休館せざるを得ない状況である。
- 委員： 職員の非正規職員数に守衛も含まれるのか。
- 申請事業者： 非正規1名は守衛となる。守衛業務として夜間のフロント業務となるが、常時2名配置し非正規1名と財団職員1名で対応している。
- 委員： 「柏崎海洋センター」という名称だが水族館のような印象を受ける。

宿泊施設として認識されづらいと思われるが、どう考えているか。工夫が必要ではないか。

申請事業者： オープン当初からの「柏崎海洋センター」という施設名であるが、「シーユース雷音」という愛称をホテル名として宿泊サイト等は登録している。

委 員： 事業計画書にある取組の中に、新規以外で収支改善を目指して拡充する事業はあるのか。

申請事業者： 今回は収支バランスを考え、ランチバイキングをはじめ、確実に運営できるもののみとなる。

委 員： 市内同業者との連携とは、具体的にどのような連携をしていくのか。

申請事業者： 市内の旅館関係等の組合に加入し、情報交換しながら運営していくということである。

委 員： そうであればなおさらであるが、現在、新潟県は県民割を行っていて非常にお得であるが 12 月末までと期間が決まっていて、この大切な機会を 12 月 1 日まで見ず見ず休館しているのはもったいない。開館時期についてぜひ御検討いただきたい。

申請事業者： そのとおりである。しかし、人員の配置の問題もあり 12 月からの顧客獲得に努めていきたい。

委 員： もう一度確認したいが、事業計画書の収支計画については財団への共通費用配賦を含めての黒字で間違いないか。

申請事業者： 間違いない。その他の経費は抑えてみている。

委 員： 3 階オープンテラスの稼働率を上げるため、海の見えるシャッターを取り付けても良いのではないか。指定期間が決まっているが、収入確保のために設備投資をするような長期的な計画は出来ないのか。

申請事業者： 以前は道路側のサッシも無かったが、雨天時も利用できるよう当時の利益を利用し設置した。御意見を参考にさせていただく。

委 員： 最後に再度確認であるが、モニタリングの収支状況にも財団への共通費用配賦が含まれていることで間違いないか。

申請事業者： 間違いない。

<全体審議>

委 員： 指定期間が 2 年間というのは、特別な理由があるのか

所 管 課： 新型コロナウイルスの先行きが見通せない一方でワクチン接種が進んできている状況であり、時限的に指定管理料を措置するため 2 年間と設定した。

委 員： 特例で指定管理料を支払うため、それに合わせた 2 年間ということか。

所 管 課： そのとおりである。

<採点及び結果>

出席委員 6 人全員が公益財団法人かしわざき振興財団を「適当と認める」とした。委員長から結果を発表し、委員全員が公益財団法人かしわざき振興財団を指定管理者

候補者として認めた。

(5) その他

ア 令和2(2020)年度実績に係るモニタリング結果の報告について

《財政管理課から説明後、質疑》

委員：各コミュニティの財政状況一覧についてだが、歳入のうち市の税金が投入されているものはどれか。

事務局：3.管理補助金、4.活動補助金は、市の補助金である。

※訂正あり(補足説明①参照)

委員：次年度以降、町内会の補助金が減額されると伺ったが、コミセンの補助金についても減額される予定があるのか。

財政管理課 町内会への市政協力費と、コミセンへの活動補助金等は全く別のもの
長：である。コミセン補助金については、これから予算措置を行うことになるため、査定を行っていく。

委員：全く別のものであっても、出どころは税収で同じである。市民としては、一番身近な町内補助金を減額する一方でコミセン補助金は減額しないとすると片手落ちではないかと思う。そのことを踏まえて、コミセンの補助金も検討いただきたい。

財政管理課 御意見として承る。

長：

委員：各コミュニティ状況調査一覧に、世帯数または住民数を記載していただくと、コミュニティの規模がわかり、補助金等も含めて適正額なのか判断できる。

事務局：次年度以降、世帯数等を記載できるよう調整する。

委員：剣野コミュニティなど、多額の積立金を行っているコミセンがある。新型コロナウイルスの影響で事業を行わなかった影響もあると思うが、周年行事の予定があるなど積立金の内訳や理由は何か。

事務局：所管課に確認して後日回答する。(※補足説明②参照)

委員：モニタリングシートについて、最終評価する際に、記載事項が事実であるか確認してほしい。記載事項の責任を取っていただきたい。そうでないと、ただの自己満足で終わりがねない。

財政管理課 御意見として承る。

長：

委員：体育施設の収支状況を見ているが、個人的には柏崎市は運動環境に恵まれていると感じる一方で、今後の人口減少が進む中で、この収支でどこまで施設を維持していけるのか疑問である。収入は指定管理料が多くを占めている中で、施設の取捨選択をするなど市としてどのように考えているのか。

財政管理課 御意見はごもっともである。今後の人口減少は避けては通れず、多くの市の施設を維持管理していくために、現状の支出をいつまでできるかは問題として認識し検討を行っている。

委員： 指定管理者導入施設は 68 施設ほどもあり、柏崎市の人口規模からすると非常に多すぎる。市や市議会で施設の縮小や指定管理料を減らすといった議論はなされているのか。

財政管理課 市の大きな方針として、公共施設は今後 40 年間で延床面積の 2 割削減を目標としている。それに向けて、施設の廃止や統廃合も含めて行っていくこととなる。

委員： 施設が減る一方の議論ばかりだが、減らすだけではなく、収入を得る施設を増やすことも考えていく必要であると思う。どう考えているか。

財政管理課 収入を上げる施設についても今後重要な検討課題である。減らすばかりではなく、収入を上げる施設も併せて検討していきたい。

※補足説明（市民活動支援課の回答）

①歳入のうち市の補助金は、以下のとおりである。

2. 管理運営事業補助金、3. 管理補助金、4. 活動補助金

なお、市からの補助金は、人件費・活動費・管理費に関する補助金であることから、繰越金や積立金に充てられることはない。

②積立金の使用目的は、コミュニティごとに異なるが、主な用途としては以下の事項である。

- ・周年事業のための費用
- ・次年度以降の事業のための費用
- ・設備等更新のため費用

なお、剣野コミュニティは、設備更新基金への積立である。

イ 非公募による指定管理者更新施設の事業計画書について

《財政管理課から説明後、質疑》

質疑なし

(6) 閉会